

令和3年度 学校総合評価

今年度の重点目標に対する総合評価

本校の役割は、不登校経験者の学び直し、障害や困難を抱える生徒への特別な支援、外国籍等の生徒への支援など、多岐にわたっている。そうした生徒一人一人に対して、先進的な教育手法による基礎学力の保証はもとより、社会で自立して自己実現を図る力を育むことが重要となっている。そのため、今年度は5つの重点課題に取り組んだ。

- (1) 「学習活動」については、単位修得率は定時科目・通信科目ともに目標を達成することができなかった。原因の一つとして、長欠者の増加が考えられる。また、生徒の学習実態については、「学習時間調査」や面談・個別指導の実施により把握した。家庭学習時間については、昨年に比べて1日あたり20分減少した。コロナ禍における反動も考えられるが、生徒の実態を踏まえた授業の工夫や進路目標の明確化による内発的な動機付け等、生徒の主体的学習活動を促す取り組みを継続する必要がある。
- (2) 「学校生活」については、昨年度に引き続き「あいさつ」の定着と遅刻の防止について取り組んだが、目標値に到達せず、指導を継続する必要がある。生徒生活指導委員会は毎学期計画的に開催し、時代に即した校則となるよう見直しに取り組むことができた。生徒の特性や健康状態等について、情報を収集し、共有することで、学校生活や授業での支援の方法について検討し、効果的に実施した。また、教育相談や特別支援教育に関する研修会を実施することで、教員の理解を深めた。今後も生徒が安心して学校生活を送り、自立した人間として他者と共によりよく生きる力を育むことができる学校作りに努めたい。
- (3) 「進路支援」については、今年度の目標としていた進路決定率90%以上をクリアするために、受験対策の個別指導に力を入れて目標を達成することができた。また、昨年度は、コロナ禍により進路ガイダンス等を予定回数実施できなかったが、今年度は、その反省を踏まえ実施時期の見直しや実施方法の変更等、柔軟に対応して、年3回実施することができた。生徒の進路希望が多様化してきており、様々な機会に進路情報を提供し、家庭と連携しながら進路選択のミスマッチを防ぐことが求められる。
- (4) 「特別活動」については、どの行事も生徒の満足度は高く、大きく成長していく一助となっている。しかし、参加率は70%台にとどまっており、各行事の参加率を高める必要がある。そのためには、生徒一人一人が各行事の企画や運営に積極的に関わる手立てを考えていくことが重要である。図書の出率については、目標値を下回っている。生徒の実態から、スマートフォンの過度な使用や、書籍に触れることを避ける傾向がある。休憩時間等には教室で静かに自習している姿が多くみられる。
- (5) 「各種検定試験への取り組み」については、資格取得という成功体験をすることにより専門学科の学習に自信をもち、学習意欲の向上につながっている。今年度は、各検定の1級合格者は増えたが、3級の合格率は停滞しており、来年度に向けて細かい支援を工夫して学習意欲につなげていきたい。

次年度へ向けての課題と方策

本校では、多様な生徒に対応し、授業改善やICT教育の推進、通級指導による個別指導・個別支援、S・C・S・Wを活用した教育相談等の一層の充実を図り、学習意欲の向上や集団活動への積極的な参加を目指して、生徒一人一人の自己実現に資するよう、教職員間のみならず、保護者・地域・外部機関との連携も深めながら、個に応じたきめ細かい教育を実践していきたい。

学校アクションプラン

令和3年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る） ・生徒の学習実態の把握 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・安易に授業を休む生徒が見受けられる。 ・学習意欲が低く、学習習慣が身につけていない生徒がみられる。 ・学力差が生じており、一斉授業が難しいことがある。 	
達成目標	① 単位修得率	② 「学習時間調査」の実施
	90%以上	2回（前期1回、後期1回）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習・生活の手引き」（授業の記録）を生徒一人一人に記録させる。 ・生徒が自らの授業の記録を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。 ・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成し、履修指導に生かす。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的・対話的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を年2回実施し、結果をフィードバックする。期末考査の期間を含めることで、考査に対する取り組みの振り返りを促す。 ・家庭での学習時間が充実するように、教材、授業などを工夫する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・単位修得率 88.4%（前期） ・単位修得率 82.5%（後期） 	<ul style="list-style-type: none"> ・2回実施
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習・生活の手引き（授業の記録）」と「キャリアパスポート（日々の記録）」を併用しているが、使い分けも含め定着していない。 ・単位修得率について定時授業では減少したが、通信授業においては増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・期末考査期間（前期・後期）を含めた調査を継続的に行い、生徒の学習時間傾向の把握に努めた。 ・集計データを職員に報告するとともに、生徒の実態把握のために利用した。
評 価	C <ul style="list-style-type: none"> ・前期の単位修得率は目標率を下回り、昨年同期と比較すると2.7ポイント減少した。 ・後期の単位修得率は、前期と比較してさらに5.9ポイント減少した。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・1日当たりの平均学習時間の減少が大きい（R2 後期比較-10分）、コロナ禍の影響は不明確であるが、学習時間0時間の生徒が大きく増えている（R2 後期比較 1.8倍）。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習・生活の手引き」「キャリアパスポート」「学習時間調査」の3つのツールは、生徒の状況を本人も教員も知ることができるのはたいへん良い。優先順位をつけて、段階的に徹底をはかっていくことも大切である。引き続き、個別面談や各教科の指導の工夫などによって単位修得率につなげていただきたい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒の家庭環境の変化から学習時間の減少につながっていないか気になります。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の記録」については、「キャリアパスポート」との併用も含め、単位制をととしての自己管理の意義を説明する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現につなげるためには、家庭での学習が大切であることを繰り返し伝える工夫が必要である。

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立及び自己管理能力の育成 ・支援を必要とする生徒のための校内体制の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットゲームやSNS、アルバイトなどにより朝起きられない生徒がいる。 ・自らあいさつを交わすことのできる生徒が少ない。 ・女子生徒の制服にスラックスが加わり、また、来年成年年齢が引き下げられることとなり、現在の校則が合わなくなる可能性がでてきている。 ・自分の健康状態を把握できず、適切な対応ができない生徒がいる。 ・周囲と適切な人間関係を築けず、学校生活に支障をきたす生徒がいる。 ・授業や行事などで「困り感」をもつ生徒が多数いる。 ・学校生活に不安を抱える生徒への対応や、高校における特別支援教育や発達障害等について、教員の一層の理解を深める必要がある。 	
達成目標	① 学校生活アンケート ② 社会の実情に基づき、校則の点検・見直し	②教育相談や特別支援教育に関する 教員研修会・学習会の実施
	あいさつ・遅刻について 良好またはおおむね良好 70%以上 生徒生活指導委員会 学期1回以上開催	年6回以上実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを行い、前月と現在を比較し自己のあるべき姿について考えさせる。また、遅刻欠席が多い生徒に対して生活習慣を見直させる。 ・生徒校風委員の主体的な「あいさつ運動」を通して、あいさつの習慣を身につけさせる。 ・生徒生活指導委員会を開催し、現在の校則の合理性、妥当性を点検し必要に応じて変更をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフィールカードや面談等で、生徒の特性や健康状態、配慮事項等を把握し、年次部会や職員会議で共通理解を図る。 ・精神面で不安を抱える生徒への理解を深め、生徒が安定して学校生活を送れるよう、教育相談に関する講演や事例研修を実施する。 ・特別支援教育（発達障害の生徒への対応・通級による指導・授業等のユニバーサルデザインなど）について、具体的な事例等を踏まえた研修会を実施する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする 52.9% (昨年58.0%) ・遅刻をしない 62.2% (昨年70.0%) ・生徒生活指導委員会 各学期 1回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時の情報共有を実施した。 ・教員向け研修会を7回実施した。 ・SC, SSWを助言者とする事例研修（ケース会議）を実施した。
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒校風委員による「あいさつ運動」を年に11回実施した。ただし、10月以降は学校エレベーターの工事により縮小して行った。 ・「あいさつ運動」の際に、生徒校風委員会でポスターを作成・掲示したり、STで呼びかけたりするなどの啓蒙活動を行った。 ・遅刻防止のため職員による校内巡視やエレベーターの乗車指導を行った。 ・生徒生活指導委員会を9月、12月、1月に実施し、校則の見直しに取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、生徒の特性や健康状態、配慮事項等について、プロフィールカードや入学時面談を通じて把握し、年次部会や職員会議等で共通理解をはかった。 ・大学教員や医師を招聘して、教育相談や特別支援教育に関する研修会を実施した。 ・SCやSSWを助言者としたケース会議を必要に応じて随時実施した。
評 価	C 校則の見直しに関して、生徒生活指導委員会を各学期1回実施することを目標にしたが、年3回実施し、見直しに取り組むことができた。一方、あいさつの定着・遅刻の防止については、ともに目標値に届かなかった。	A <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性や健康状態、配慮事項等について教員の共通理解を図ることができた。 ・教育相談や特別支援教育に関する教員の理解を深めることができた。 ・問題を抱える生徒について関係者で話し合い、適切な支援につなげることができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解を深めて、生徒が目標を達成できる手立てに見つけてほしい。 ・校則の見直しに取り組めたのは、時宜を得た良い成果である。 ・多様な生徒に対応され、一人一人が自分の未来に希望を持って進めるよう教職員が取り組んでおられることがよくわかった。職員研修も、多様な生徒への支援につながるよう考えられている。 	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が確立しておらず、自己管理ができていない生徒の指導。 ・変更した校則が社会の実情に対応できているか、さらに検討する。 ・コミュニケーションを苦手とする生徒への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教員研修会の内容が、とても幅広く概論的なものだったので、来年度は、個々の事例についての理解や、実際の指導に活かせる支援方法を学ぶ内容へと深化させたい。 ・生徒が自分自身の心身の健康について考え学ぶ「健康教育」「心理教育」の充実を図りたい。

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった

令和3年度 志貴野高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて学校全体で支援する体制づくり ・年次の状況に応じた進路支援と主体的な進路選択 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職ともに地元志向が強く、県内及び隣接県への希望者が多い。 ・各年次における生徒状況が異なるため、それぞれに応じた指導が必要である。 ・進学希望であるが家庭の状況等で就職へ希望の変更をする生徒がいる。 ・進路選択でミスマッチになる生徒がいる。 	
達成目標	① 希望する進路の内定率の向上	② 計画的・継続的な進路指導の実施
	進路決定率 90%以上	各年次の進路ガイダンス年3回実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導や保護者会等をとおして生徒や保護者に的確なアドバイスを行い、進路選択のミスマッチをなくすようにする。 ・新制度入試や新カリキュラムに対応できる進路指導が実施できる体制をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、進路見学会、適性検査、進路講話等を計画的に行うことで、主体的に進路を選択する力を育成するとともに進路意識の高揚をはかる。 ・キャリアパスポートで日々の行動を記録する習慣をつけさせて、自己の目標に向かっていくかを振り返りながらキャリア形成をはかる ・基礎学力向上講座、一般常識コンクール、面接指導等を計画的に実施することで、学力の向上や定着に努める。
達成度	・90.9%	・年間3回のガイダンスを実施した。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望と適性の確認（ミスマッチ防止） ・JSTによる面談の活用（情報共有） ・ハローワーク等校外の機関との連携 ・校内教員進路研修会の実施（スキルアップ） ・進路説明会への参加（情報収集） 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート等の活用 ・キャリア発達のなかの進路指導の実施 ・進路選択を広げる各種奨学金制度の周知 ・基礎学力の向上 ・コロナ対策としてガイダンスの代替案準備
評 価	A 進路未決定生徒の指導を粘り強く行う。	A コロナの影響はあったが、きめ細かい進路指導をすることができた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する様々な行事の実践は、進路決定率の向上とともに、進路選択のミスマッチを防ぐためにも有効である。 ・生徒が進路を選択するときに、家庭の経済的状況等によって夢を諦めることのないよう、奨学金制度などの社会資源が活用されるようご指導をお願いします。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した効果的な進路指導 ・新制度入試（R7）対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する進路希望への対応 ・発達段階に見合った進路指導の実施 ・読解力の向上

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった

重点項目	特別活動											
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加の促進 ・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立 											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や学校行事には、ほとんどの生徒が積極的に参加しており、また募金活動においても協力的である。しかし、ボランティア活動、保育園や障がい者施設での交流などは、コロナ禍の影響でほとんどが中止となり、参加できなかった。 ・図書委員会では高岡市立中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、参加者が特定の生徒に偏っている。また図書館を利用する生徒も限られ、読書習慣が確立しているとは言えない。 											
達成目標	特別活動に参加した生徒の満足率	生徒在籍数に対する総貸出冊数の割合 (生徒一人あたりの年間貸し出し冊数)										
	90%以上	70%以上										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。 ・事後アンケートを実施し、生徒の満足度や問題点を把握する。 ・満足度の低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が充実感を得ることができるよう工夫する。 ・コロナ禍に配慮しながらボランティア活動等の参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。 ・リクエスト帳を活用し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。 ・図書館だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。 ・HRの時間等を利用して読書指導を行い、図書室の利用を図る。 										
達成度	<table border="0"> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">満足度</td> </tr> <tr> <td>・校内生活体験発表大会 (7月)</td> <td style="text-align: right;">97.1%</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ大会 (9月)</td> <td style="text-align: right;">中止</td> </tr> <tr> <td>・文化祭 (10月)</td> <td style="text-align: right;">94.0%</td> </tr> <tr> <td>・百人一首カルタ大会 (2月)</td> <td style="text-align: right;">中止</td> </tr> </table>		満足度	・校内生活体験発表大会 (7月)	97.1%	・スポーツ大会 (9月)	中止	・文化祭 (10月)	94.0%	・百人一首カルタ大会 (2月)	中止	<ul style="list-style-type: none"> ・39冊 (昨年度：70冊) ・生徒数243人 (昨年度：236人) ・貸出率 16% (昨年度：30%)
	満足度											
・校内生活体験発表大会 (7月)	97.1%											
・スポーツ大会 (9月)	中止											
・文化祭 (10月)	94.0%											
・百人一首カルタ大会 (2月)	中止											
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を考慮し、各行事に対して主体的に参加できるようにできるだけ早めに具体的に内容を企画・運営担当する生徒へ示した。 ・今年度も校外のボランティア活動はコロナ禍のためほとんど中止となったが、生徒会企画のいちご募金は4月から継続して、毎月3日間ずつ行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書委員会は、『図書館だよりの編集発行や、文化祭で「おすすめ本」の展示・紹介を行うなどの活動を重ねた。 ・コロナ禍により、図書に触れる心理的抵抗感を軽減するよう、返却図書は72時間後、書架に戻している。また利用者が密にならないように座席を配置し、図書室入退室時の手指消毒の徹底を図るなどの衛生対策を行っている。 										
評 価	A	D										
	各行事に対する生徒の満足度は90%を超えており、目標は達成できている。	コロナ禍の影響もあり、図書館の利用は低迷している。安全対策を行っているが、利用者が昨年度より大幅に下回っている。										
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、様々な経験を積みながらゆっくと成長してほしいので、行事参加の満足率が高いのはたいへん良い。今後は、参加率を目標にすることも検討してはどうか。コロナ明けの際には、文化祭に限らず、生徒が活躍できる機会ができるようになってほしい。 ・ボランティア活動に参加したい生徒が増加していることから、コロナ禍にあって何ができるか、どうしたらできるかを自分たちで考える機会とし、その気持ちを大切にしてもらいたい。 ・コロナ禍で図書貸出が低調なのはやむを得ない。「おすすめ本」の紹介は良い企画です。生徒が親しめるような本の導入や、他の図書館と連携するなど、多くの生徒が本に親しめるよう方策を考えてほしい。 											
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度は目標を達成できたが、出席率は70%台であり、長期欠席者を考慮しても少し低い状態である。もっと参加率を上げる必要があり、各行事の企画・運営に積極的に関わらせるための様々な手立てを考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣を育てるためにも、HRや授業時間を活用して、図書館利用の宣伝と利用方法の周知を続けると同時に、蔵書の継続的な点検整備が必要である。 ・コロナ禍における衛生対策・感染予防対策の徹底を図る。 										

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかというと達成できていない D: ほとんど達成できなかった

重点項目	各種検定試験への意欲的な取り組み	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報ビジネス科」：専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図るため、各種検定試験に対して効果的な対策を行い、受検率と合格率の向上を目指す。 ・「生活文化科」：主体的に学習に取り組む態度を育成するため、被服、食物、保育、情報の各分野において、各種検定試験に取り組み、合格を目指す。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の読解力や計算能力など、基礎学力が不足している生徒がみられる。 ・簿記や情報処理など、論理的思考力や計数能力が必要な専門科目において、内容理解が困難な生徒がみられる。 ・基礎学力が低く、生活に関する関心や問題意識が低い生徒がみられる。 ・生活経験が少ないため、生活に必要な知識や技術が身につけていない生徒がみられる。 	
達成目標	① 「情報ビジネス科」における各種検定	② 「生活文化科」における各種検定
	受検者の合格率70%以上	受検者の合格率90%以上
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、基本的な学習内容を確実に定着させ、更に発展的な学習内容への関心と意欲を高める。 ・関連する授業の充実に努め、学習効果の高い教材を活用し、家庭学習習慣の定着化を図る。 ・オンライン教材の利用を検討し、各種検定試験の合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目における体験的・実践的学習により、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 ・各種検定の合格に向けて、自主教材や過去問題等事前学習に取り組ませる。 ・全商検定で年間指導計画を超えて上位級への挑戦を希望する生徒には、学科の枠組みを超えて情報ビジネス科に指導を仰ぐ。
達成度	検定合格率 57.7%	家庭系合格率94.1%、総合78.0%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット・プロジェクターなどICT機器を活用し学習内容の定着を図った。 ・各検定について上位資格の受験を積極的に推奨した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験においては、家庭系検定、全商検定ともに放課後の個別指導や長期休暇中の家庭学習等によって実技の定着を図った。 ・知識の定着を図るために、IT教材の活用を試みた。
評価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体合格率は57.7%で目標を下回った。内訳は「珠算・電卓検定」63.1%、「ビジネス文書検定」53.4%、「情報処理検定」56.4%、「簿記検定」54.1%であった 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対策に伴う出席停止等で一斉指導から遅れをとり検定への意欲をなくす生徒もいた一方、積極的に上位級に挑戦する生徒も現れ下級生への励みになった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、工夫をしながら実績を上げられたことに敬意を表します。 ・生徒が検定試験合格を自らの目標として掲げ努力することは、貴重な経験になる。生徒が意欲的に取り組めるよう引き続き働きかけてほしい。 ・実情に応じた目標設定でも良いと思う。合格率だけに限らず、複数資格を取った生徒や上位級に挑戦した生徒にも着目することも良い。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・過去3年間の検定合格率は60%前後であり目標値について検証の必要がある。また、1年次の合格率が低下傾向であり3級の目標値を明確に定め取り組む必要がある。 ・高等学校学習指導要領改訂を踏まえた学習評価について共通理解する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、検定への取り組みを負担に感じる生徒が散見されるので、学科内で年間指導計画における検定級の設定や、指導の在り方について再検討したい。 ・技術指導について効果的な指導方法を若手教員に引き継いでいきたい。

評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: どちらかという達成できていない D: ほとんど達成できなかった